

公民館青少年講座

「里山へ行ってみたい〜冬〜」

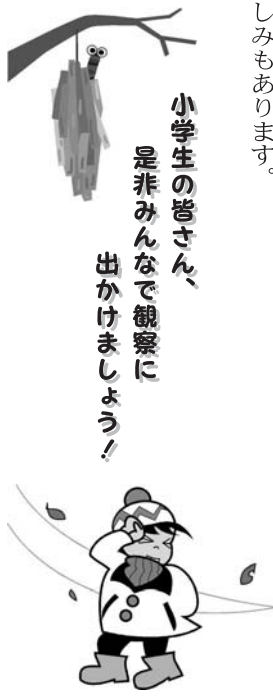
中央公民館高幡台分室主催により、昨冬から小学生を対象として実施している環境学習講座「里山へ行ってみよう!」、今回は2月4日(土)に実施します。



7月に実施した回「夏の里山は虫たちのパラダイス」では、都立七生公園(程久保地区)を訪れ、まるで公園を覆い隠すかのよう生い茂る樹木や、そこらじゅうを跳ね回る虫たちの生態を観察することができました。

今回の「冬編」では観察場所は前回と同じ七生公園を訪れますが、夏のにぎやかさとは対照的に、樹木の葉は落ち、虫たちも見当たらず、まるで眠っているかのようなたたずまいを見せる里山が、実は春を待つ間、冬の寒さを必死に耐え忍び、暖かい春が来たらいつせいに芽吹くための力を蓄えている、そんな様子を実際に観察しながら学びます。

また、葉を落とした木の枝には葉が落ちた跡が残りますが、それが木の種類によって動物の顔に見えたり帽子をかぶった人の顔に見えたりと、どんな顔が見つけられるか探して回る、そんな楽しみもあります。



小学生の皆さん、是非みんなで観察に出かけましょう!

「里山へ行ってみたい〜冬〜」

【日時】2月4日(土) 午前10時から正午まで

(10時に京王線・多摩動物公園駅改札前に集合)

【会場】都立七生公園(程久保地区)

【申込み・問合せ】中央公民館 高幡台分室

電話 042-592-0864



日野ヤングスタッフの

「BOOKパレード」開催

「読書の森でこころをほぐす」

日野ヤングスタッフとは、図書館の呼びかけで集まった市内在住・在学の高校生・20代の若者からなる「本好き」のメンバーです。活字離れが心配される若い世代に、図書館へ足を運んでもらい、読書に興味をもってもらうことを目的に現在19名が活動しています。これまで、人気作家を招いた講演会の開催、スタッフ推薦の本の紹介文を載せた図書リストの発行等を行い「新たな人と本との出会い」を提供してきました。

今年度は、初の試みとして、中高生向け読書イベント「BOOKパレード」読書の森でこころをほぐすを昨年11月27日、多摩平児童館ふれっしゅにて開催しました。当日は、集まってくれた中高生に直接語りかけるといふ体験に緊張しながらも、作品の朗読、パワーポイントを使った本の紹介などを行いました。また、自分たちがこれまでに作った図書リストを手渡すこともできました。

参加された方からは、楽しかった、読みたい本が増えた、本を読むと自分の可能性が広がり、人間性が豊かになるというのは全くそのとおりで、自分もそういった経験がある、等の嬉しい感想をいただきました。このイベントを通してスタッフ自身の言葉で読書の良さを伝え、一緒に楽しめ分かち合うことができたと思います。スタッフにとっても、同世代に向け発信したものは、確かな手応えとなつて返ってきたと実感できたことでしょう。

この試みは、現場の先生方のご理解ご協力のもと、今後も児童館や市内中学校への出張版「BOOKパレード」として継続していきたいというのがスタッフの熱い思いです。「本が好き」で繋がったメンバーが仲間

の輪を広げ、さらに読書の楽しみの輪も大きくなることを願っています。



(図書館)

せつぶん 節分の行事



今年、2月3日が節分です。節分といえば豆まき、最近「恵方巻」を食べるといふ人もいるかもしれません。昔の暦(こよみ)では、それぞれの季節が変わる日を、立春(りっしゅん)・立夏(りっか)・立秋(りっしゅう)・立冬(りつとう)と呼び、その前の日を、季節の分かれる日という意味で、「節分」と言いました。正確には、節分は1年に4回あるのですが、春を迎える2月の節分は、旧暦の正月にも近く、様々な行事が行われるので、節分といえば、この日のことと思われてきました。

節分に行われるのは、新しい季節を迎えるにあたって、人々に災いをもたらす悪霊や病氣、稲や農作物に害をもたらす害虫などを追い払うための行事です。豆まきは、もともと中国で行われていた追儺(ついな)という、悪い鬼を追い払うための儀式が日本に伝わったものです。また、鬼を追い払うためには、くさいにおいのするものを焼くとよいということで、イワシの頭を焼いてヒイラギの小枝にさして出入り口にさしておいたりします。日野ではこれを「ヤツカガシ」と呼んでいます。ヤツカガシを焼くときには「稲の虫モージャモジャ、麦の虫モージャモジャ、稲の虫ババリ、麦の虫バ-

リバリ」「米の虫もジリジリ、豆の虫もジリジリ」など、様々なおまじないの言葉を唱えました。現在でも、市内の旧家の玄関や蔵の扉に、ヤツカガシがさされているのを見ることがあります。節分の豆まきは、その家の主(あるじ、一家を代表する人)の役割でした。家の内外、屋敷内にまつている神々、村の鎮守の社(やしる)やお堂などをまわってまきました。年の数、またそれより一つ多く食べるといふ風習があり、節分には新しい年を迎えるという意味もあつたことがわかります。残りの豆は夏になるまで取っておいて、初めて雷が鳴った日に食べると、雷除けのおまじないになるとも言われました。

最近盛んに宣伝されている「恵方巻」は、もともと関東地方にあった風習ではありません。日野市内で行った民俗調査でも、節分に恵方巻を食べたという報告はありませんでした。恵方巻は、太巻き寿司を、一本まるごと恵方(その年の縁起の良い方角)を向いて、一言もしゃべらずに食べるといふもので、起源については様々な説がありますが、



(郷土資料館)